

V 組織運営

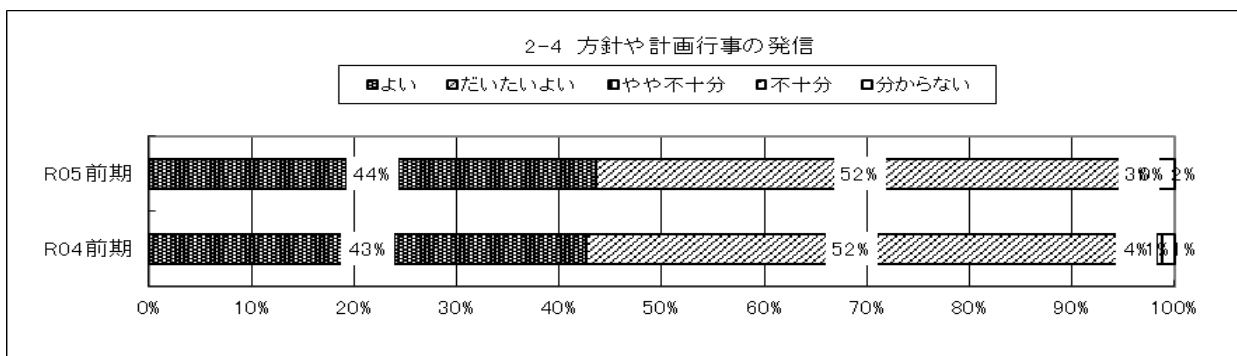
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント	
特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	良好	野呂校長のリーダーシップの下、つながりのある組織であると感じる。会議の流れができており、職員全体の参画意識が高まり一人一役を担っている。運動会に東中の運動会を活用したように、地域の人材をもっと活用して欲しい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>①学年主任会と学年部会隔週、定例で行うことで、各指導部から出される案件等を共通理解しながら、実践できるようになった。また、指導部での伝達事項は学年部会で行うので、職員一人一人が指導部への参加意識も高まり一人一役を担っている。学年部会で出された反省を基に指導部会が行われているため、各部長は反省を生かして提案することができ、行事等が円滑に行われている。</p> <p>②大館駅新駅舎のオープンに関わって、6年生が駅ONEと大館圏域産業祭に参加予定である。児童の主体的な探求的活動が展開され、さらにこれからの学習につなげていきたい。</p> <p>③開校記念集会では、開校80周年記念に作られてた「ありうらノベル」を作曲してくれたダックスムーンさんをお招きしてコンサートを行い、歌に込められた思いや作詞した先輩に敬意を表すことができた。ダックスムーンの方々の歌を聞いたり、一緒に歌ったりすることで愛校心を高められ、めざす子ども像「大館を愛し、次代を担う“気付き、考え、行動できる子どもの育成”」に向かうことができたので、今後も啓発を継続していきたい。開校記念集会や各学年のふるさとキャリア教育などは、地域人材や学校の実態を考慮した活動がよく行われていた。</p> <p>④運動会を一日開催で行った。コロナ禍により、一日開催の運動会を経験することで、子どもたちの心の成長を感じることができた。子どもたちにも保護者にも好評であった。</p> <p>〈後期の取組〉</p> <p>①1、2年生の生活科での地域を素材にした活動や、3年生以上のふるさとキャリア教育の実践を、地域や他校等にも発信していくことに力を入れたい。</p> <p>②「夢講座(6年)」、クラブ活動など、後期も引き続き、地域人材の活用を図っていく。</p> <p>③6年生が駅ONE、大館圏域産業祭に参加して、大館のよさをアピール。</p>			
【年度(→次年度)】				

〈後期の取組〉

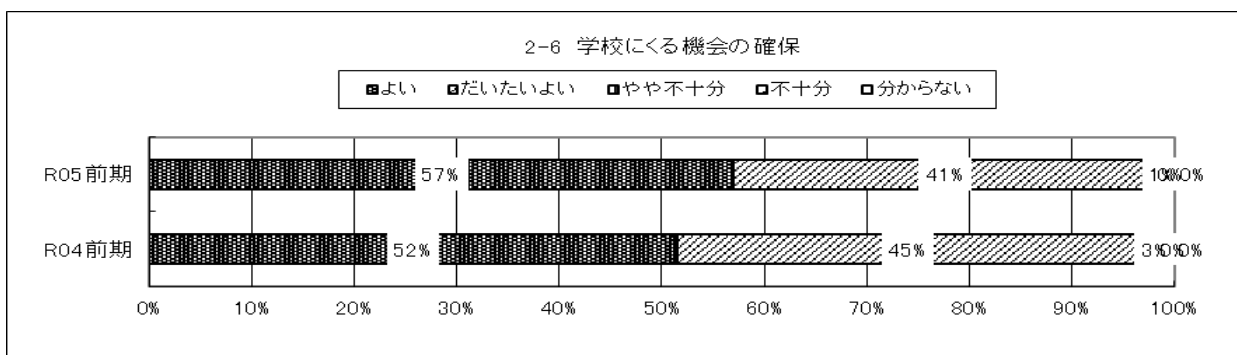
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
11 学校の明確な運営	(12)経営方針や重点施策の明示と遂行	教育目標具現のための適正な運営組織と分掌分担 PDCAサイクルを踏まえた組織的活動と学年部・指導部の連携	3	
12 教育課程の編成と実施	(13)地域や学校の実態を考慮した教育活動の推進	充実した諸活動を保障する適切な教育計画の立案と実施 夢をはぐむふるさとキャリア教育の充実	3	

※学校教育アンケートから

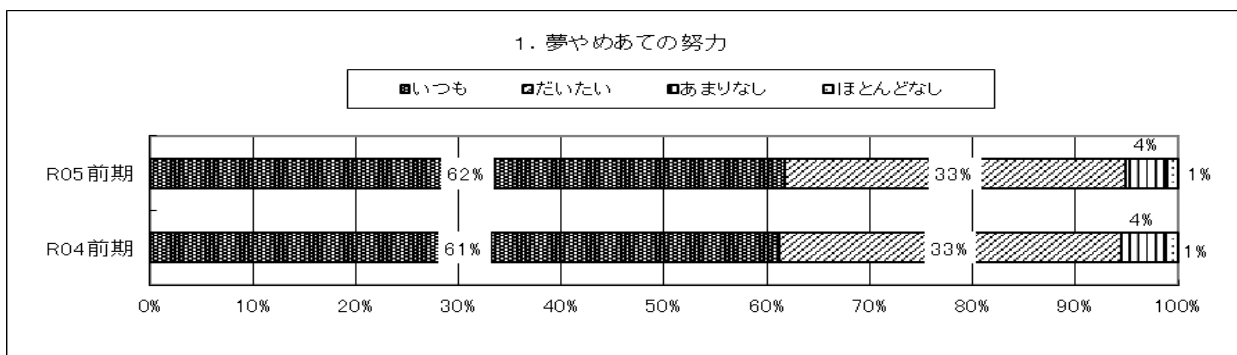
(保護者)



(保護者)



(児童)



☆ふるさとキャリア教育での取組「アクション 前へ踏み出す力 授業と地域のつながり」



- 全校 開校記念集会
「ありうらノベル」の作曲家をお招きして
〈ダックスムーンコンサート〉
- 4年生 福祉体験学習
(車椅子体験、アイマスク体験、高齢者体験)
- 5年生 ぼくらありうら探検隊
(大館の自然、自然教室に向けて⇒
みんなが過ごしやすいまちへ)
- 6年生 SDGsにつなげていくための1年
大館新駅舎応援プロジェクト
駅ONEへの参加(10月)
大館市産業祭への参加(10月)。

